

## 「ヨーロッパの木造建築から木と建築と社会を考える」 法政大学デザイン工学部建築学科 網野禎昭氏

## 「民家に学ぶ一民家のポキャブラリーで新しい建築を考える」 大角雄三設計室 大角雄三氏 (岡山県)

毎年、木の家スクール名古屋では、名古屋工業大学にて多様でユニークな講師の講座が開催されています。

### ■集住の木造 網野禎昭氏

ヨーロッパ (スイス・オーストリア) の木造集住・木造都市では、高さが揃った、ロマンチックな風景は昔から外皮面積・薪の消費を減らすことに必死だったそうです。

#### ①構造体を木造にすることにこだわらないで床面だけ木造にするなど

(S造RC造の置換ではない木の使い方とし、木の価値を居住性におく)

- ・S+W 大会社社屋 (水平床構面木材+柱梁S造→建物の軽量化 鉄骨が細くなる)
- ・RC+W 小学校 (水平床構面木材+柱梁RC造 →建物の軽量化 床がはずせる=リノベーションしやすい)

#### ②木造の工法を1つにしぼらない (標準工法がない、工法のハイブリッド、構造設計の多様化・自由化)

- ・枠組工法 (ツバノ) と面材 (CLT) とラーメン (スルトン) の良い所を組み合わせる

#### ③木材を産業廃棄物にしない (古い建物をすぐには廃棄しないで極力使い続ける)

- ・将来産廃にならないよう、公共建物でも塗装などの木のトリートメントを極力避ける (将来は燃料の薪にする)
- ・既存建物1F石造で増築2~5F木造集合住宅や、既存RC建物の上に木造ホテル客室を増築するなど

#### ④地元の工務店でも工事可能な木の使い方を模索している (職人の技量がバラバラで人件費は高い)

- ・大きなゼネコンに勝つため、ホテル建築で同じ部屋なので、作業場で1部屋をまるごと作って行って現地で組立 (生産施工の担い手は社員15名の地元木造会社にてつくられた)
- ・角材を長だばでつなぎ合わせて大建築の床構面を構成したり、箱の組み合わせによる床構面、木製デッキなど

上記の①から④のような多様で自由な考え方で、一見、田舎にみえる風景の都市が、周囲の森との共生して持続可能でコンパクトな、木材産業の最先端都市だそうです。

国内での省エネはというと断熱材で覆い冷暖房負荷を減らすこと、木構造大断面集成材による構造、不燃化と法律で縛りを受けた1つの方向に進みつつある省エネ化が、大手優位にしか働いてないようですし、いつもの鎖国です。

開国するためには、多様で自由を思考を止めないようにし、周りをよく見ることが大事だなと思いました。

### ■民家に学ぶ 岡山県倉敷市の大角雄三氏

大角氏は60歳くらいだと思いますが、どことなく井上ひさしさんに似た感じの方でした。

民家が好きで仲間6人で各地の民家を見て廻り、デザインの要素として民家の魅力を取り入れているそうです。

①丸太梁が好き。②格子が好き。③縁側が好き。ということで新築設計される建物には①から③を取り入れているようでした。②③は、中と外との緩衝帯として有効に機能させているそうです。①は趣味でしょうね。最近は何にやぐにやした丸太梁が手に入らないから良い感じの空間になりにくくて残念だと嘆いておりました。

民家改修では、かやぶき屋根にトップライトを設置したり、天井を透け透けの竹スダレのようにして、屋根を一部ガラス張りにして和室に外の光が思いっきり入る空間にしたり大胆な手法にて設計したりしているとのことでした。

(施主の方はえらく早起きになったとのことです。) パワーポイントでもそのデザイン力は発揮されていて、雑誌の1

ページのようなレイアウトが多く、すごく感心して見ていました。ほとんど確認申請の経験がないようで、失敗談では、四周縁側の建物を設計した際、建ぺい率オーバーが木材加工がほとんど完了した時点で発覚し、なくなると両側の縁側部分を削ったそうです。

←外壁と建具を同じ意匠の格子+ガラスにした建物 (黒野晶大)

